



Title	最近のネズミの動向
Author(s)	吉田, 政弘
Citation	makoto. 1978, 24, p. 6-7
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86137
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「最近のネズミの動向」

大阪府立公衆衛生研究所 動物室

研究員 吉田 政弘

人気のなくなった繁華街を歩いてみると、シャッターのおりた商店街の道端に、その日に出土されたゴミがならべられ、浮浪者らしき人が、店の前で酒ビン

を横におき、グッスリとねこんでいる。なにかそこいらを黒いものが動く。しばらく立ち停っ

て見ていると、ゴミバケツのまわりに、ドブネズミがチョコロ、チョコロ2匹・3匹と顔を出して

きた。のびてねている人が、寝返えりを打つと、ネズミ共は、近くの下水溝にす早く隠れた。

又二・三分も立たぬうちに、出てきて、ふたのあきかけたゴミ

バケツに飛びつき、中へ姿をかくした。今や、人気のなくな

った後、ドブネズミがヒトサマのあまり餌にたかり、人にかわり、ネズミの天国と早変わりである。

この様な光景を目撃できたのは、私だけではなく、ネズミ駆

除を本業とされておられる方々には、一度ならず幾度も経験さ

れておられる事と思います。この光景を想い出す度に、不潔感が思いおこされ、何としてもネズミ駆除を徹底せねばと認識をあらたにさせられます。

では一般家庭ではどうか、大阪府下で皆様方はじめ、各団体の御協力いただいた、一九七四年より七七年の四か年間にわたる成績をみてみよう。この調査は、一九九町村、二四地区において、毎年一・二・三月に、行な

ったもので、一地区あたりおおむね百戸を対象として一週間にわたり生捕りやおよび、捕殺かなを用いてネズミの生息状況を調査したものである。その成績は、表1に示すように、ハツカネズミが最も多く六割をしめ、次いでクマネズミ、ドブネズミが2割程度しめていた。ゴミ処理場などでは、すぐにドブネズミが主流ではないかと想像されるのであるが、調査した2カ所ではいずれもハツカネズミ一色

であった。これらの処理場が生ゴミの始末つまり、豊富な餌を必要とするドブネズミにとって不利でむしろ小型なハツカネズミには有利であるのだろう。

ちなみに、茨木市においては、全面建て替えによるゴミ処理場が改善される以前は、ドブネズミが多数生息していた。また、ハツカネズミは、比較的新らしく開発された都市近郊での一般家庭にも多かった。この様なことは、図1に示すように、堺市全域の成績においても同様なことが認められる。すなわち、繁華街が密集するような所では、ドブネズミ、クマネズミの大型のネズミが主流であるが、昔、田畑であった所に建てられた家屋では、ハツカネズミが多く認められている。

それでは、実際に役所の窓口ではどのようになっているのかを知るため、豊中市の資料を少しめしてみる。表2にあらわ

表1 ねずみの総合調査(S・48年度から実施中)における棲息状況調査・結果

年度	保健所名	市町村名	地区の概況	ねずみの種類		計	備考			
				ドブネズミ	クマネズミ ハツカネズミ					
S48年度	茨木市	茨木市	衛生処理場	0	0	19	19	ハツカネズミ4頭(ノゲンコにて捕獲)		
			住宅地	6	3	1	10	シャーマントラップは使用せず		
			住宅地	1	(3)	8	0	(3)	9	シャーマントラップは使用せず
			ハム等食品加工場	1	1	7	9			冷凍室中でハツカネズミ捕獲
			住宅地	1	13	0	14			シャーマントラップは使用せず
S49年度	堺市	堺和田市	館高地域の食堂	2	0	0	2			
			市立給食センター	0	(1)	1	3	(1)	4	バチンコにて捕獲
S50年度	高槻市	高槻市	小学校・保育所給食場(15カ所)	2	0	0	2			
			新築住宅	3	0	0	3		捕そ籠にて捕獲	
S51年度	吹田市	吹田市	住宅地	0	7	0	7			
			住宅地	1	0	20	21			
S52年度	八尾市	八尾市	半農村的住宅	1	0	20	21			
			陸上自衛隊駐屯地の食堂	(9)	21	(1)	2	0	30	23
S53年度	松原市	松原市	農村地	1	(3)	7	1	(3)	9	
			市営住宅	1	0	(3)	5	(3)	6	
S54年度	吹田市	吹田市	住宅地(隣接にL尿・ゴミ・下水処理場)	18	0	33	51			
			農村地と住宅地	0	7	31	38			
S55年度	守口市	守口市	市場	1	0	1	2			
			半農村的住宅	1	1	1	3			
S56年度	狭山市	狭山市	換気扇の埋立地	0	0	16	16			
			半農村地区と住宅地	3	(3)	15	(1)	44	(4)	62
S57年度	泉南市	泉南市	住宅地	0	(6)	34	20	(6)	54	
			住宅地(一部工場・農家あり)	4	0	(3)	19	(3)	23	
S58年度	富田町	富田町	農林地	1	3	4	8			
			住宅地	1	0	11	12			
S59年度	和泉市	和泉市	住宅地	5	0	15	20			
			住宅地	5	0	15	20			
計				17%	24%	59%	03	427		
				(9)	74	10	172	(7)	251	

()内は番頭による死体数

いるように、やはり、近年ハツカネズミの苦情、問い合わせが多くなってきていることがわかる。このようにハツカネズミが多くなってきたその原因をさぐってみよう。①下水道の普及によるドブネズミの地下での生活が

主体になりつつある。一般家庭におけるゴミ処理(とくにゴミバケツの普及)の改善によるドブネズミに対する餌の供給不足や、ネズミが家屋内に入らないような構造のとり入れなどが、大型のネズミにとって不利な条

表2 豊中市における苦情、相談受付件数の推移

(豊中市下水道部作業課調べより)

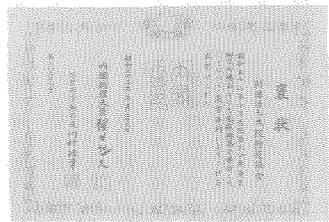
年度	種類	月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
S50	大型 ドブ クマ	8	5	5	1	2	2	1	0	1	3	5	0	33
	年度 ハツカネズミ	0	1	3	3	0	4	2	0	5	3	11	6	
S51	大型 ドブ クマ	1	4	0	2	0	3	1	1	0	3	1	4	20
	年度 ハツカネズミ	33	7	2	21	1	6	11	3	2	4	10	12	
S52	大型 ドブ クマ	3	4	2	2	1	2	4	3	3	0	6	4	34
	年度 ハツカネズミ	9	7	13	8	3	2	7	4	8	6	12	12	
S53	大型 ドブ クマ	3	4	6	1	3								17
	年度 ハツカネズミ	12	9	8	1	2								

件として働らいている事。すなわち人の側からの環境改善による事。②殺鼠剤(防疫用)のネズミ類に対する効果が、種類によって違っている事。たとえば、クマリン系殺鼠剤のハツカネズミに対する効力は、ドブネズミの50倍以上の薬量を必要とする事。又、ノルボルマイドでは、ドブ・クマネズミに対しては卓効しているが、ハツカネズミには皆目効力が認められない。の様に、ハツカネズミは、大方の殺鼠剤(防疫用)に強い事。③ハツカネズミ自体、他のドブネズミやクマネズミよりも小さく、

人の目につきにくい事。又、あまり足音などを立てず、騒々しくない事や小さくてかわいらしい等のように人に見過す事が多い。以上の様なことから、ネズミから我々の快適な生活を確保するためには、まず第一番に、駆除する場所のネズミの種類を把握する事が、大切かと考えられる。このことから、使用殺鼠剤投入場所、使用器具といった作業の内容を明らかにしてくれるでしょう。

一九七八・八・盛夏

褒 賞



さきに大阪府へ、防疫業務充実のための機器を寄贈しましたが、これに対し、去る七月十四日、褒章条例による上掲褒状を、大阪府を經由し授与されました。

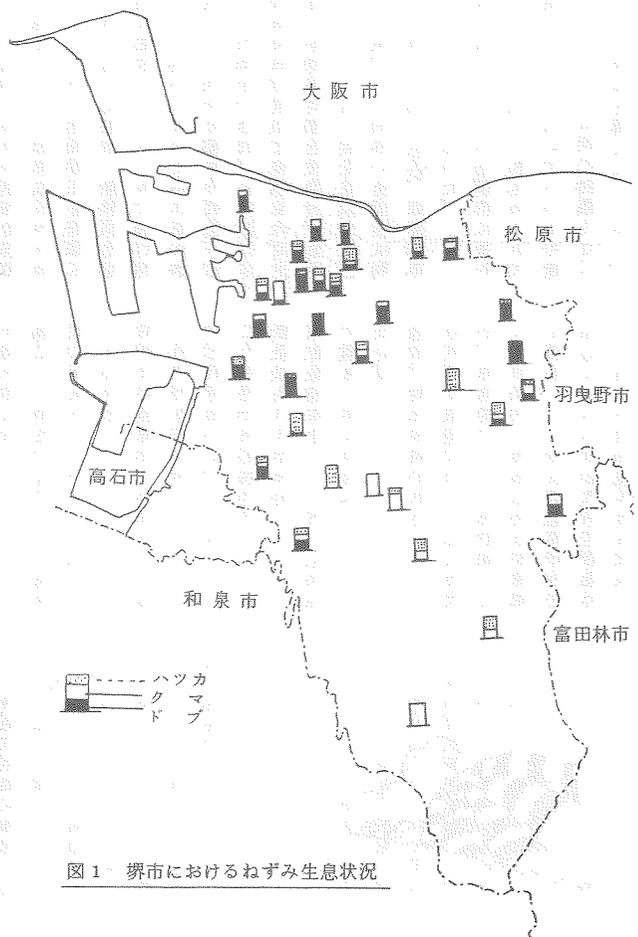


図1 堺市におけるねずみ生息状況